

平成 26 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	26K18	氏名	野村 宏行
研究主題 —副主題—	小学校における日本人としてのアイデンティティを育成する学習の創造 —教育活動全体で育み、道徳の大主題学習で深める—		
所属校	東大和市立第八小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>グローバル化の進展により国際競争が激しくなると同時に、国際協調の重要性がますます大きくなっている。そこで重要になることが、日本人としてのアイデンティティを適切に育成することである。</p> <p>アイデンティティの確立とは、社会における位置付けを基に、自信をもって自己の存在を確かめることである。よって、日本人としてのアイデンティティを確立するには、我が国に対しての認識や所属意識を深めていくことが必要である。また、グローバル化の進展を踏まえると、世界の中の日本人という認識は欠かせない。ここから、日本人としてのアイデンティティを「我が国への所属意識を深めながら、自分なりにそのよさや強みを認識することで確立する、世界に生きる日本人としての自己認識」と捉え、その育成を研究の目的に設定した。</p> <p>日本人としてのアイデンティティを育成するために、教育活動全体を通してどのような学習が期待できるのかを、明らかにしていく。そして、その学習プログラムを作成することを成果として目指す。さらに、教育活動全体で行う道徳教育の要であり、日本人としてのアイデンティティ育成の中心となるであろう道徳の時間の授業実践を通して、研究の検証を行う。学習のつながりと積み重ねを重視した大主題学習を用いた授業を行い、日本人としてのアイデンティティ育成と同時に道徳授業充実の可能性も同時に探っていく。</p>
II 研究の方法	<p>上記のテーマを追究するために、以下の五段階で研究の手順を構想した。</p> <p>研究①アイデンティティ育成についての先行研究調査及び日本人としてのアイデンティティ育成に関する基本的な考えの押さえ:日本人としてのアイデンティティとは何かを、文献を読み進めることで整理する。明らかになった内容を基に、日本人としてのアイデンティティ育成について、研究の土台を築く。</p> <p>研究②子供及び教員への意識調査を通した帰属意識などに関する実態把握 子供：所属意識や我が国への思いを調査する。 教員：日本人としてのアイデンティティ育成についての意識を調査する。</p> <p>研究③日本人としてのアイデンティティを育成するための学習の分析:学習指導要領解説及び先行研究の調査から、小学校における日本人としてのアイデンティティを育成する学習を分析する。</p> <p>研究④教育活動全体を通した学習の創造:上記の研究を踏まえて、日本人としてのアイデンティティを育成するための学習プログラムを作成する。</p> <p>研究⑤道徳の時間での授業実践とその手だてなどの検証:研究の検証として、道徳の時間に視点を当てて授業実践を行い、研究の成果と課題を検討する。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>研究①本研究においては、「伝統と文化を尊重する心」及び「我が国と郷土、共に生きる人々を愛する心」を育てることで日本人としてのアイデンティティが確立するとして、それらを具現化する学習活動の創造を目指した。また、その際は子供の多様な背景への配慮が必要であることを強調している。</p> <p>研究②調査研究により、以下の五つの留意点が明らかになった。①子供が我が国や郷土から大切にされている感覚をもたせること、②社会への理解や意識の深まりを考慮しながら、適切な自尊感情を育てていくこと、③伝統と文化に関すること、我が国や郷土、共に生きる人々に関することを一体として育てていくこと、④郷土への学習を意識すること、⑤教員の取り組みやすさを意識した学習プログラムを創出すること</p> <p>研究③教育活動全体で行う日本人としてのアイデンティティを育成する学習活動を整理した。とりわけ、国語科、社会科、道徳の時間、総合的な学習の時間が中心的な位置付けになることが明らかになった。</p> <p>研究④研究①～③を踏まえて、身に付けさせたい資質・能力を設定した。その上で年間指導計画例を作成し、日本人としてのアイデンティティを育成する学習プログラムを作成した。</p> <p>研究⑤道徳の時間での検証授業を行った。学習のつながりと積み重ねを生かすために、学習の関連性及び連続性から、三時間を貫く学習問題を設定した。加えて、ポートフォリオを生かして学習の積み重ねを意識させた。また、社会に対する問題意識を生かすために、切実感のある学習材を中心的な資料として活用し、主体的な価値の追求学習を行うようにした。さらに、社会参画意識の醸成を目指すために、社会科との関連をもたせた学習活動を行った。また、当事者意識を強化する思考の機会を設定した。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>研究全体の成果としては、第一に日本人としてのアイデンティティを育成する学習の整理ができたことが挙げられる。第二は学習プログラムの作成である。目指す子供像、学習の全体像、中心となる授業実践を通して検証することで、より実効性のある学習プログラムになったと考える。第三は検証授業における子供の学習の深化が挙げられる。課題としては、日本人としてのアイデンティティ育成の内容の吟味がある。また、現行の学習指導要領を基に進めた研究であるので、これから示される新しい学習指導要領への対応も必要になる。その他には、他の各教科等における更なる実践、「21世紀型能力」における評価の具体的な検討などが考えられる。</p>